

昭和32年3月10日

講演要旨

401—53

も亢進しているのを証明した。食鹽水などの鹽類水溶液入浴も影響を與えるが、その様相は鹽類の種類により多少異っていた。

I と II の實驗には42°Cの高温浴を用いたが、38°Cの微温浴を用いた2, 3の實驗でも同様の傾向を認めえた。これは温泉効果が温熱作用のみによるのではなく、含有された鹽類の刺激作用によるところが多いことを意味している。

以上より温泉浴は性機能障害や慢性炎症に用いて効果を期待しうるが、非特異的的刺激による變調療法に屬するものと思われるから、實施にあたっては症状、泉質に注意する必要がある。

## 76. 正常月經周期に伴う血管像の立體顯微鏡的觀察並びにその撮影所見、特に眼球結膜血管像について

(日大) 橋爪一男, \*岩井和夫

成熟婦人の月經直前または月經期において身體各所の血管が擴大充血の傾向にあり、破綻、出血を見易いことは、開腹手術、代償性月經などの事實から婦人科醫の等しく知る所であつた。私共は昭和30年球結膜血管の細隙燈所見を立體顯微鏡を用いて觀察し、「毛細管は月經周期に應じ形態的變化を行つていること、それは小動脈の怒張、小静脈の鬱血、分枝、新生並びに一部の破綻などであること」を發表したが、今回さらに等倍率撮影及び、30倍撮影の寫真撮影結果による判定を加味して既知の事實をより確實ならしめ、また同時に多少の新知見をえられたのでここに發表する。

正常月經周期を有する未婚成熟婦人30名を選び、その眼科的疾患並びに内科的疾患とくに腎障害、高血壓などを除外し、基礎體温表を記入させ乍ら約2カ月間隔日乃至は週3回の觀察撮影を行つた。觀察には30倍擴大率の双眼顯微鏡を使用し、撮影はその一方にライツ顯微鏡撮影裝置並びにキャノンカメラを装着し、ストロボライトを利用した。同時に等倍率撮影にはライツ等倍撮影裝置を使用した。

しかして私共の觀察並びに撮影判定の結果として月經期において細動脈はトーンが高まり、波動運動の著明な亢進が見られた。とくに動静脈交叉部においては細動脈の一部が斷絶されているが如き所見を呈している部分も見受けられた。この様な攣縮像は動静脈交叉部以外にも時として現れることもあつた。かゝる時期においては細静脈も血流徐行して血球流動の様相を肉眼的にも確認しうると共に寫真像においては著明な顆粒状乃至は斷續

性血流の像を呈し、管徑は概して狹小であつた。また毛細管においてはその吻合を認知しうる數は極めて少く、ために動脈末端から静脈末端への移行の確認が殆んど不可能な部分が多かつた。

かゝる變化も月經發來第4～5日を迎え次第に回復し、増殖期並びに分泌期に至る間細動脈は波動運動小となり、血流も速く管徑も擴大して来る。細静脈も全く同様に變化し、かつ分泌期の終頃すなわち月經前期に至れば鬱血状を呈した。毛細管も次第に貧血所見から回復し、毛細管吻合を認め、それを1列に通過する血球の像が手に入る様に眺められた。

大約上に述べた様な變化が30名の未婚婦人外眥部眼球結膜に大部分現れ、なかには極めて著明に繰返す例と、極めて微細な變化に終る例とがあつた。私共は、自己考案の裝置を用いた結果その撮影には極めて短時間でこれを行ひえたので比較的多數例の知見をうる事が出来た。

## 77. 子宮腔部糜爛腺上皮の周期性變化に関する組織細胞學的研究

(國立鹽原) 中山 明

1. 目的：子宮頸管内膜に周期性變化のあることは最近明確にされたが、頸管内膜圓柱上皮の異所的増殖によつて形成された子宮腔部糜爛において、臨牀的に糜爛面より分泌される粘液が周期的に著明な量的變化をすることに氣付き、とくに子宮腔部糜爛腺の周期性變化を組織細胞學的に追求せんとした。

2. 研究方法：對象とした婦人は有排卵性、正常かつ正調な月經を有する成熟婦人で、頸管の急性炎症及び腔炎のあるものは除外した。總數66例で、この中、同一人につき1周期2回以上採取したものは14例に及んだ。子宮腔部糜爛面より採取した組織片は、一般所見についてはヘマトキシリン・エオジン染色によつたが、分泌機能の檢索には各種の特殊固定法・染色法を行つた。

3. 研究成績：①一般的所見 (a)月經期及び卵胞期前期においては間質は一般に緻密で血管・淋巴管の輕度の増加・擴大をみる。月經期を遠ざかるに従つて間質は次第に粗鬆となる。腺の形態は一般に圓形・卵圓形で單純である。腺上皮細胞は一層の低い圓柱細胞よりなり、配列は正しく、核は圓形・卵圓形で基底に近く配列する。腺上皮細胞は周期の進むに従つて丈が高くなり、肥大した核は基底に壓迫されて凹面を上方に向けた半月状を呈するものが多く見られる。腺腔は擴大・複雜化し皺襞を生ずるにいたる。(b)中間期においては間質はますます